

あしや わがまち トピックス



児童センター

児童センターの催し

- うさぎひろば
 - 日時 12月1日・8日(木)午後3時～4時/22日(木)午前10時30分～11時30分
 - 内容 自由遊びと手遊び
 - 対象 1・2歳(平成26年4月2日～27年4月1日生まれ)と保護者・16組
 - 申し込み 当日5分前に会場へ
- あそびひろば
 - 日時 12月5日(月)・7日・21日(水)午後2時30分～4時/19日(月)午前10時～11時30分※途中退出可
 - 内容 親子で自由遊び
 - 対象 0～2歳児と保護者・16組
 - 申し込み 時間内に会場へ
- おはなしひろば
 - 日時 12月14日(水)午後3時～4時
 - 内容 自由遊びと紙芝居
 - 対象 幼児と保護者・16組
 - 申し込み 当日5分前から会場へ
- 親子クラブ見学
 - 対象 3歳(平成26年4月2日～平成27年4月1日生まれ)と保護者・1日2組
 - 申し込み 見学日等詳細は電話で下記へ
- 子育てフリー相談
 - 日時 火・金曜日・午前中(12月20日まで)
 - 内容 児童厚生員との個人面談※子ども同伴可
 - 申し込み 電話で下記へ

会場&問い合わせ

上宮川文化センター ☎22-9229/☎22-1659(〒659-0061 上宮川町10-5)

芦屋病院・リハビリテーション外来について

問い合わせ 芦屋病院地域連携室 ☎31・2156

リハビリテーションは、単なる機能回復訓練ではなく、心身に障がいを持った人がその人の持つ力を最大限に発揮させ、社会参加や自立を促すことを目的としています。内閣府の平成28年版高齢社会白書によると、平成27年10月1日現在、日本の高齢化率は26.7%に達しており、介護等を必要としている高齢者数も年々増加しています。介護等が必要となる原因は、脳血管疾患や関節疾患、転倒・骨折などが多くを占めており、これらを予防することで健康寿命・健康的に生活できる年齢が延びると考えられます。高齢者がその人らしい生活をその人の意思で送ることができるためには、介護予防や介護を必要とする状態になっても自立を促すリハビリテーションの充実が重要です。そこで、市立芦屋病院では整形外科とリハビリテーション科が連携し「リハビリテーション外来」を7月末より開設しました。



リハビリテーションの様子

この外来では、早期に身体機能低下を発見することで、適切な対応策を検討することが出来ます。まず、当院の整形外科の受診と運動機能検査により、医師がリハビリテーションの必要度を診断します。その結果に基づき、リハビリテーション技師が一人おひとりに合ったオーダーメイドの運動プログラムを提案し、リハビリテーションを開始します。

- 室内の移動が困難などの理由で、家事などに困っている
 - 年々、歩きにくくなってきた
 - 退院後足の筋力が弱くなったなどでお悩みのかたはぜひ一度リハビリテーション外来をご受診ください。
- 詳しくは当院の地域連携室までお問い合わせください。
- 整形外科 名和 隆
リハビリテーション科 田村 宏

芦屋市男女共同参画センター通信「ウィザス」を読もう！

男女共同参画センターでは年4回センター通信「ウィザス」を市民編集委員の皆さんと共に作成・発行しています。男女共同参画に関する情報や、疑問などを毎月わかりやすくまとめています。



センターでの催しのお知らせ等も掲載しています。ぜひ一度手に取って見て下さい。次回の発行は12月1日です。

【主な配架場所】

市役所・ラポルテ市民サービスコーナー・市民センター・図書館・各集会所※市ホームページにはバックナンバーも掲載しています

問い合わせ 男女共同参画センター ☎38-2023/☎38-2175/✉josei-ce@city.ashiya.lg.jp(〒659-0065 公光町5-8)

今から1400～1600年前(古墳時代中期～後期)

市内の遺跡から

出土している勾玉

遺跡の出土品の中で、勾玉をご存知のかたは多いと思います。勾玉は、縄文時代から飛鳥時代頃にかけて作られた装身具で、奈良時代の『古事記』(712年)や『日本書紀』(720年)にも「勾玉」(曲玉)の表記がみえます。その名の通り、曲がった形をした玉なのですが、この形にどのような意味があったのでしょうか。それには諸説ありますが、そのひとつは、縄文時代に動物(イノシシなどの牙をネックレスにする習慣があったことから、動物の牙をモチーフにしたという説です。このほか、母親のお腹にいる胎児の姿を表現しているなど、さまざまな説があります。が、確かなことは分かっていません。

また、勾玉の大半は石製ですが、素材となる石には、ヒスイやメノウ・水晶等、現在も宝石として珍重されている石が多く使われます。このほかに、青色のガラス製の勾玉や、珍しいものでは、和歌山市車駕之古墳(5世紀後半)からみつかった金製の勾玉があります。

勾玉は、まじないやまつりごとなどにも使用されたと考えられています。また、古墳時代には、大王や豪族が亡くなった際に、勾玉を身に付けて埋葬した事例が多くあります。そして、市内の古墳や遺跡でも、勾玉が数点みつかっています。

市内で出土した勾玉は、古墳時代中期～後期(5～7世紀)のもので、駒塚古墳(翠ヶ丘町・現存せず)で1点、八十塚古墳(岩ヶ平支群第7号墳(六麓荘町)で3点出土しています。また、珍しいものでは、大きな勾玉に小さな勾玉が付いているように見えることから、「子持勾玉」と呼ばれる特殊な勾玉が、月若遺跡(月若町)と三条岡山遺跡(三条町)でそれぞれ1点ずつ出土しています。



子持勾玉 (右:月若遺跡/左:三条岡山遺跡)

さらに月若遺跡(月若町)では、勾玉を模倣した勾玉形土製品が1点みつかっています。このように市内でも古墳時代の勾玉が数点出土していますが、身分の高いごく一部の人のしるしにしていることができなかったこれらの勾玉は、当時の人々にとってどのように映っていたのでしょうか。

芦屋タイムトラベル 問い合わせ 生涯学習課 ☎38-2115